



ひでしま ゆきお
秀島 由己男 (芸術) 故人

昭和9年(1934年)4月15日 生
平成30年(2018年)10月3日 没
(享年84歳)

【提供：熊本市現代美術館】

秀島氏は水俣町（現水俣市）出身。画家・銅版画家。

水俣市立第一中学校を卒業後、母校の美術教師・長野勇の画塾で水彩画の指導を受け、歌人・石牟礼道子と出会う。浜田知明や海老原喜之助に師事し、水彩画・ペン画・銅版画等を学び、多くの作品を制作した。

第1回熊本県水彩画展で水彩画『静物』がグランプリを受賞。以降、熊本県美術協会展でM氏賞・S氏賞を受賞、熊日総合美術展で熊日賞・知事賞を受賞、第2回熊本県文化懇話会で新人賞、第1回ユベスキュラ「グラフィカ・クリエイティブ」国際版画トリエンナーレ展（フィンランド）でディプロマ賞を受賞するなど、多数の受賞歴がある。

また石牟礼道子との共作『詩画集 彼岸花』や浜田知明との共作『土方定一童話集 カレバラス国に名高きかの物語』を出版し、以降も歌人や作家との共作による銅版画集を発表。スイスや西ドイツなど海外の展示会にも出品した。

第5回熊本県民文化祭みなまた『秀島由己男の世界展』以降、各地で個展が開催された。大川美術館（群馬県）『魂の叫び 秀島由己男展』、神奈川県立近代美術館『秀島由己男展』、熊本県立美術館『魂の歌-秀島由己男展』、熊本市現代美術館『秀島由己男 創造と探求の生者展』などで多くの作品が展示された。

また平成10年4月からは石牟礼道子の新聞連載小説『春の城』の挿絵を担当。写真を活用した銅版画に取り組み、翌年2月までに316点（単行本の表紙絵を含む）を制作した。

秀島氏は、絵画・版画の制作と並行して、石牟礼道子氏を代表とする多くの作家等との共作を発表し、本県の芸術文化の向上に貢献した画家・銅版画家である。

昭和25年 水俣市立第一中学校卒業

昭和32年 浜田知明氏に師事

昭和38年 海老原喜之助に師事

昭和42年 浜田氏よりエッチングプレス機を譲り受け、銅版画の研鑽

平成4年 玉名郡三加和町津田（現和水町）へ転居し創作活動を継続